

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2874002278		
法人名	有限会社 ほおずき		
事業所名	グループホーム CHIAKIほおずき姫路高岡		
所在地	兵庫県姫路市山吹1丁目3番25		
自己評価作成日	平成25年4月11日	評価結果市町村受理日	平成25年6月3日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kai=true&amp;JigyosyoCd=2874002278-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/28/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kai=true&amp;JigyosyoCd=2874002278-00&amp;PrefCd=28&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 姫路市介護サービス第三者評価機構		
所在地	〒670-0955 姫路市安田三丁目1番地 姫路市自治福祉会館6階		
訪問調査日	平成25年5月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

CHIAKIほおずき姫路高岡では、「えみがこぼれる家庭…それがわたしのほこりです。」の理念のもと、職員一丸となり、残存機能の維持に意識をもち、日常の営みを大切にしながら暮らしでは、何気ない1日を役割ある時として位置づけ、又、季節の歳時を通じて地域の方、家族様、友人など、交流がおこなえるように働きかけ、居場所のある環境作りに取り組んでおります。地域密着型の役割を職員一人ひとりが認識し、馴染みの環境で、出来る限り暮らし続けられるように、心身のケアに力を注いでいます。ボランティアの定期的な交流や、日々散歩での挨拶など、老人会主催のカラオケ大会や、祭りごとなど地域住民との交流にも、日々貢献しております。健康管理も十分に行い、関係機関や家族との協力体制の中、認知症ケアを専門的に実践継続しています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム設立10年を迎え、職員は理念を共有し具体的に実践し毎年見直ししながらステップアップを図っている。家族からは「さすがプロ」と言わしめる認知症ケアに真摯に取り組んでいる。利用者の素敵な笑顔と生き生きとした表情からは、安心して居心地よく過ごせる良き人間関係の下で学習療法等による適度な脳の刺激と残存能力の維持など身体介助のみならず生活を豊かにするケアが確立されていることが伺える。利用者一人ひとりの全体像を理解するセンター方式を取り入れたアセスメントにより、職員が利用者を「見る目」「聴く耳」「気づき」が磨かれ個別ケアが実践されていることが大きな特徴である。さらに継続した研修体制の確立、災害対策としてはスプリンクラーの設置はもとより消防署の指導のもと、防災寝具やカーテン等の整備、コンセントなど電気器具の点検など万全の対策がとられている。今後はニーズが高くなっている終末期ケアの方針確立や成年後見制度等を適切に繋げる支援に期待する。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および第三者評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+Enter)です。〕

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時にほおずきの理念を、唱和し、高岡事業所の理念「真心を込めて信頼と安心を届けよう」を掲げ折にふれ、意識して実践に向けて職員一丸となり努力している。	法人の理念を基にホーム独自の理念を作り職員は周知し実践に繋げるように努力をしている。理念は毎年見直しを行いステップアップを図っている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	子供会、自治会主催の行事(秋祭り・夏祭り・カラオケ大会・清掃活動)にも積極的に参加、自主的に散歩時の清掃活動、トライやるの受け入れや、ほおずき行事へのご招待を通して、事業所が地域の一員としての交流をしている。	地域のふれあい喫茶に参加し地域の方と交流している。地域の祭りや行事にも参加しておりボランティアの関わりも多い。散歩がてら清掃活動も行っており、地域の方から声を掛けてもらうことも多い。地域とのつながりの基盤はしっかり築かれている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、掲示板を活用して、認知症専門士がいることをアピールして、問い合わせがあれば、電話相談、来訪にて相談も受け、民生委員の方にも、お知らせして地域に発信している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域密着型サービス事業所としての存在をアピールしていく場として、運営推進会議を活用(自治会、民生委員との交流)し、幅広い意見をサービス向上にいかしている。	2ヵ月に1回定期的に行っており家族代表、自治会長、老人会会長が参加し、最近では災害対策について具体的な取り組みが進んでいる。今後は地域包括支援センターに参加要請を検討している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	関係機関(消防・警察・学校)との連携を通して、実情を伝え、協力体制を築くように取り組んでいる。	法人全体として全ホームの運営やサービスレベルを上げる目的で、各ホームからの質問や要望は本社を窓口として市担当と協力関係を築いている。グループホーム連絡会ではホーム責任者が市担当者と直接話す機会もあり関係性はある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や各ユニットの出入、エレベーターの施錠はなく、開放と自由空間をモットーに身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	玄関入り口やエレベーターは施錠しておらず、利用者は自由に2階と3階を行き来することが出来る。一階のサービスにも気軽に入出入りしており、職員は随時把握して対応している。	
7	(6)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体面、精神面の側面から「不適切なケアについて」を職員で共有できる研修を行いながら、職員のメンタル面にもフォローし防止に努めている。	職員の新人研修では虐待の捉え方等を必須で行っており、職員研修の年間計画でも継続的に行うようにしている。対応が難しい利用者には複数の職員が交代で係わるようにし多くの目で支援出来るようにしている。	

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで理解を深め、運営推進会議などでも話題にするなど、又法人全体での研修や身近な事例から学び活用できるように支援している。	権利擁護制度を利用する利用者は現在居ないが、以前は家族が成年後見人となったことはあった。管理者対象の研修は行っているが、職員全体が制度自体を理解しているとは云えない。	法人内の研修は行われているが、現状では活用に繋げることができるかどうかも含め、今後の課題として位置づけされている。引き続き研修を行うと共に家族や利用者にも説明が出来るようにパンフレット等の整備が望まれる。
9	(8)	契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は十分な時間を頂き、説明させて頂きその場その時に質問はないか確認させて頂き、噛み砕いて説明してきちんとした家族様の理解・納得の上で契約している。	時間を掛けて十分な説明を行っており、利用後のトラブルは発生していない。	
10	(9)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族からの意見、要望について職員間での報連相を行なう研修の機会や、管理者、計画作成から、情報収集出来る体制づくりを行っている。	ホームに家族が来所した時に様子を伝え要望等を聞く機会を持っている。月1回は広報誌を発行し、定期的な家族の集まりの時にも常に問いかけケアパートナーとしての関係作りに留意している。介護計画書見直しに際しては「家族意向聞き取りシート」を利用している。	
11	(10)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1/Mの定例会議や不定期の会議又カンファレンスなどで意見が出るように機会を作っており、即座に反映できるものは即実行して、楽しく働ける環境を作っている。	月1回の定例会議の他カンファレンスは適宜行い職員の意見、気づきやアイデアを取り入れ出来ることは直ぐに実行するようにしている。職員の意欲向上や質の確保にも繋げている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	普段から個人別に把握する様に努め、個々の特性を知り自信を持って働くことが出来るように配慮している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	1年間の目標やマイチャレンジで個人目標を掲げそれに向けて研修や、資格取得のためなど自己投資などをうながしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姫路市GH連絡会、地域包括センター、地域の勉強会など参加して、交流を持ち、情報交換などで、サービス向上に努めている。		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望を傾聴し、積極的にコミュニケーションを図りながら、24時間シートや、ひもときシートを活用し、信頼関係の構築に取り組んでいる。又、他者との会話の場を作ったりと意識して声掛けを多くしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族をはじめでのことばかりで、戸惑いもあるので、計画作成者がご本人、家族との関係づくりを積極的に行い、チームでケアできる体制づくりに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談の時にどのような支援が出来るか把握して、家族の状況を踏まえて、出来る限りの情報を伝えられるように努めている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の残存能力の維持の為に、出来ることはしてもらい、一緒にしたり、共に暮らしているという生きがい、やりがいのある関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告時に、家族様の状況をお聞きして、心配事の確認とか、面会をお願いしたり、家族会など、行事の参加を促し家族も一緒に支えていることを感じていただく。		
20	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の了解のもと、馴染みの方が来訪時には楽しい時間を過ごして頂くようにもてなしたり、家族の協力があればなじみの場所にも行ける事を伝え、家族以外の方との関係を絶たないようにしている	利用者の思いを聞きながら馴染みの場所やお墓参りも職員同行で行っている。以前に職場の同僚だった来訪者や近隣の方の来訪もあり、つながりを大切に支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士を同じテーブルにしたり、職員が間に入り楽しい時間が過ごせるように、ゆったりと一緒にソファでくつろいだりと、環境づくりをしている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後のご様子を電話やお見舞いなどで、経過を把握し、必要時は相談支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(12)		思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	長い人生の歴史の中で本人が続けてこられたことや、好きなことを大切に考え、希望を聴くなど努力し、利用者本位で、考えている。	個別ケアを大切にするため利用者の全体像を理解する独自のアセスメント表が作成されている。日々の関わりの中で利用者のもつ力や限界の両方を把握し適切なケアに繋げている。学習療法が好きな方は取り入れており効果も確認している。	
24			これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの在宅生活を、できるだけ思い出されるように出来ていたこと、得意な事を引き続き、出来るように環境を整えたり家族からの情報(バックグラウンド)などで把握に努めている。		
25			暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	外出の好きな人には散歩や買い物など、台所仕事が好きな人には料理や洗い物など一緒にしていただき個々の状態の把握と、今現在の残存能力の、把握に努めている。		
26	(13)		チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニットの職員の視点を統一するため朝、終礼時、話合いの場をもち、家族には、見直しに際しての意向聞き取りシートを活用し、希望や不安を安心になるように、プランに反映するようにしている。	家族意向聞き取りシートを作成して家族の意向を把握することを含め、業務日誌、カンファレンスによるアセスメントとモニタリングを繰り返し個別の具体的な介護計画に留意している。	
27			個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の言葉や行動など、個人のケースに記入し、朝、終礼など随時話し合いをして次回の介護計画見直しに活用している。		
28			一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既成概念に捉われず、個々の状態に応じて又、家族の要望の変化に応じ、職員全員で支援できるように対応している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の婦人部主催の1/Mのふれあい喫茶や散歩時の声掛けその他季節の行事など地域の中で暮らしていると精神的、肉体的に豊かさを感じられるように支援している。		
30	(14)		かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医を決める時は本人と家族と職員とで受診して、納得の上で決定してもらい、その後の受診からは、個人の状況を把握した上で、しっかりと情報提供ができる様に支援している。	本人、家族の意向でかかりつけ医は決めている。これまでのかかりつけ医の受診は家族が同行している。協力医への受診については職員が同行し必要時には情報提供による対応も円滑に行い支援している。	
31			看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時は、職場のナースに指示を仰いだり、訪看が入っている人には状態報告して相談したり指示を仰いで受診などにつなげている。		
32	(15)		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院当日にサマリーを提供して少しでも環境の変化を受けないよう、環境が変わっても同じようなケアが受けられるよう、又お見舞い時は、出来る限り利用者と一緒に行き、病院スタッフと連携を取りながら、早期の退院支援を行っている。	病院への情報提供は日常的に行い、お見舞いには出来る限り行くように努めている。病院の地域連携室とも情報交換を行うようにしている。	
33	(16)		重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	運営推進会議や、個別に状態を伝え、面会時などに家族の意向を聞きながら、節目での話し合いを行い、地域の関係機関との連携支援に取り組んでいる。	以前に老衰の利用者をターミナルまで看取った経験があるが、ホームとしては積極的にターミナルまでは行う体制になっていない。ホームの力量や体制を見極めながら最大の支援方法について検討中である。	今後ますます本人と家族にとってニーズの高い課題だけに体制を整えていく課題として位置づけ、協力医との関係、職員の体制等ホームの方針を明確にし、体制を整える努力が望まれる。
34			急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	計画的に勉強会や、対応について実践しながらに行い職員の理解といざと云うときの行動につながるように、ナースの指導の下、努力している。		
35	(17)		災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練などを定期的に行い利用者にも、声掛けをして避難できるよう、真剣に取り組む運営推進会議にて、地域の方との協力体制を築きあげている。	年2回の訓練は夜間を想定した訓練を中心に行っている。姫路市のハザードマップを活用してホームが災害に巻き込まれる可能性など様々な角度から対策を行っている。地域の協力関係も進んでおり最低限の水や食料の備蓄も行っている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(18)		一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライベートな件は居室で対応して、不適切な対応や言葉かけがあれば注意していき、親切丁寧な対応を心掛けている。プライバシーについての、勉強会も開催しており、ケアに繋げている。	トイレ利用時の声掛け等では職員間で声掛けの内容を確認しながら十分に注意をしている。法人の研修やホーム独自の研修も年間計画を立て、継続して行っている。	
37			利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人にまず声かけをして、気持ちを聞いてから、行動するように、気持ちを伝えられにくい方には、選択肢を分かり易いように伝え本人本位に出来るように努めている。		
38			日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調、介護状況に応じてお手伝いや好きなこと、興味のあることを楽しくできる範囲内でしていただくように、心掛けている。		
39			身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己管理されている方には、本人の好みのものを身につけていただき、自分で選べない方には声かけをしながら、その人らしいように支援している。メイクアップ教室なども開催して支援している。		
40	(19)		食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員が作成したメニューを基に、楽しく準備・かたづけなど職員と一緒に参加でき、食べることの楽しみが日々の活力になる様に支援している。	食事も重要なケアの一つとして捉え、食の安全にも注意を払っている。食事一連の作業を利用者とともにいい職員も一緒に食事を楽しんでいる。100歳の利用者も完食していた。食材管理規定により食費は材料費を実費計算し、返金制度も取入れている。	
41			栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスを考えて、メニューを作り状態に応じて食事形態を変えたり、量も体に合わせた量をお出ししている。		
42			口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己管理の方には声掛させて頂き介助の方は一緒にさせていただいている。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)		排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートを活用して排泄パターンなどを把握するように努め声掛、誘導を行って失禁が減るように支援している。	センター方式のシート(24時間生活変化シート)で排泄パターンも把握しており、声掛けを行い失禁が少なくなった利用者も居る。トイレでの排泄は「尊厳」の一つとして位置づけトイレでの排泄を重視している。	
44			便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を増やす、ヨーグルトなど排便を促す食材を使用する、日々の散歩・自転車こぎなど個々の状態に合わせた便秘の予防をしている。		
45	(21)		入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の体調・行事などあるが、出来る限り本人の希望に添えるように、声掛けなどさせていただいて支援している。	希望者は毎日入浴することが出来る。体調管理にも気をくばり風邪ぎみの時には居室を温めて湯ざめにも配慮する心くばりがある。必要な方には清拭も行っている。	
46			安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の運動など活動量を増やしたり、散歩にて、日光に当たったりと夜間の入眠がスムーズになるように支援している。		
47			服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	名前・日付け・何食後かをチェック、確認して内服していただき新しい薬の時は内服後の症状のチェックなどを把握するように努め誤薬のないように努めている。		
48			役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力を見極め、個別対応にて、楽しみのある日々が過ごせるように支援している。		
49	(22)		日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	誕生日や記念日に行きたい所やしたい事など聞いて、家族の協力のもと出来る限りかなえられるように努力している。毎日の散歩も行っている。	天気の良い日はホームの裏道を利用して散歩を楽しみ地域の方ともふれあっている。今年の桜見物は全員が参加した。年に1回は家族の協力を得ながらバス旅行も行っており、本人の行きたい場所へはこれまで通り当たり前前のこととして支援している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持や、管理について、職員間で共有し、お金を持って、外出できる機会をつくるように、支援している。		
51			電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や、はがき・手紙などのやりとりが長く出来るように、年賀状・暑中見舞いなどは出来る限り自分で書けるように機会をもうけて支援している。		
52	(23)		居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の部分にみんなの写真や皆で作り上げた作品を掲示して心地良さを演出したり、テレビの音、陽あたりなど配慮しながら、テーブル位置など状況に合わせて変更している。	フロアー入口には満面笑顔の利用者と職員の写真が飾ってあり「笑みがこぼれる家庭…」を感じさせてくれる。台所の音やにおいて感じてもらうことも大切に、利用者の名前入り椅子カバー、3ヶ所のトイレなど自分の家だと感じてもらう配慮と工夫がある。	
53			共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーとか自席周囲、又は個人の居室にて、話をしたり、気の合う人同士、楽しく過ごせるような場所作りの工夫をしている。		
54	(24)		居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時今まで使用されていた家具を持参され、なじみのある居室を作ったり、本人の興味のある生け花を飾ったりして、工夫している。	利用者の希望で畳の居室もあり、居心地よく過ごせることに留意している。家族と相談しながら仏壇、馴染みのタンス、家族や孫の写真が持ち込まれ、温かい雰囲気をかもしだしている。	
55			一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室など提示したり、洗濯機に張り紙をして、自分で洗濯機に入れてもらったり、手すりの消毒してもらったり、安全な環境を作っている。		